



発足

1992年1月、緑の地球ネットワーク準備会がスタートしました。中国との民間交流活動にたずさわっていた人や、環境問題に関心がある人などがあつまり、中国の環境問題はこれから大変なことになる、なにか協力ができるだろうかと動き出したのです。

意欲はあっても知識も技術もお金もありません。緑化ならなんとかなるのではないかと考えました。北京や上海などの大都市から1日以内で行ける場所にしたい。こちらは緑化の素人ばかりだから、現地にある程度経験がないと困る。私たちの協力が現地の環境や生活の改善に役立つと目にみえてわかるような場所がいい。近所に観光スポットがあればもっといい。……そんなわがままな条件をだして、北京の知人に候補地をあげてもらったのが、山西省大同市（当時は雁北地区）渾源县でした。

このころは、「どうしてアスファルト砂漠、コンクリートジャングルの日本から自然が豊かな中国に木を植えに行くんだ」といわれ、緑化協力団のメンバーを集めるのも一苦勞でした。まだ中国の環境破壊の状況は知られていなかったのです。けれど現地を訪ねてみると、1本の木もない山やま、黄土が浸食されてできた深い谷、耕して天に至る段々畑……。緑化の必要性は疑問の余地がないと思われました。さっそく、渾源县で協力を開始しました。

1993年4月には、緑の地球ネットワークとして正式に発足しました。